

活動名	団体名	ほんわかプロジェクト応援団
学生ボランティア「ほんわかプロジェクト」による、積雪地の高齢者宅等での除雪及び島しょ部での柑橘農家の支援	地域	広島県東広島市
	代表者	広島大学 名誉教授 (比治山大学教授) 石井 眞治
	支援金額	25 万円
活動概要		
<p>広島の大学生を中心に活動範囲を広くするボランティアグループを編成し、その活動を支援し、地域との交流で学生達のコミュニケーション力も伸ばす目的で、応援団をつくって活動している。2013 年度は、離島の柑橘農家での手伝いや、県西北部の田植え行事に参加して、柑橘栽培や米作りに関する知識と体験を得るとともに、地域の方々との交流も行なった。ただ、活動計画の冒頭に掲げた「積雪地での除雪作業」は、この冬の降雪量が少なかったため直前に出動を中止するに至った。</p> <p>◆実施時期 期間:2013 年 5 月から 2014 年 3 月の間 場所:大崎上島町、安芸太田町 (庄原市での活動は今冬の積雪が少なく中止した)</p> <p>◆参加人数 大学生 97 名 社会人 26 名 地域の方 110 名以上(交流会は人数の 1/4 程度を計上)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:233 名</p>		



柑橘(ハッサク)の蕾を枝からはずす作業
5 月 (大崎上島町)



摘み取ったミカン(いしじ)を選果場に運ぶ
12 月 (大崎上島町)



花田植交流会
5 月 (安芸太田町 殿賀)



雨で中止の田植え
「せっかく来てくれたから」と手植え体験

◆実施に伴う効果

先ず、参加した学生の旺盛な好奇心とひたむきに作業を行う熱心さに、指導をしてくださる農家が感心され、熱心な指導に加え、次回の実習を楽しみにしてもらう程の高い評価を得た。2014 年度も継続する。また田植え体験については、「”花田植え”行事を重ねたい」との地元の要請に沿う形となり、好印象のためか、「翌年は主催地区として招待したい」との表明がなされ、2014 年も出向いて交流する予定である。これら2つの活動とも、参加した学生達には食料生産を考える良い刺激となったほか、地元の方達が町外の人々にも視点を向ける契機となったと喜ばれた。

◆苦勞した点

個別の農家や個人宅に直接交渉をするのではなく、役場及び地元の NPO や自治振興区の代表者に相談と要請をする方法を選んだ。
日頃から関わりのある地域であることや、数年前からの活動でもあり、加えて若者達の思いにととも理解のある役場職員や地域の方であったため、調整役としての苦勞はなかった。
また、柑橘農家での作業については、学生の代表が農園主と相談して作業日を決める運びとしたため、より良い意思疎通と気運の醸成に至ったと思う。

◆今後の課題・発展の方向性

若者、特に学生の場合、活動の趣意や熱意を好ましい方向で継承できるか・・・という課題が“不安”に似た形で存在する。
実地参加した場合には、ほぼ大多数が好印象を得ることができるので、学生であれば年次を混在させて構成することや、常に新しい参加者を歓迎する姿勢が必要だと思う。
また雪かきボランティアに行く際は、地域で支援して下さる方の家にも等しく積もる雪の問題であり、地域での調整に負担を少なくする努力も必要だと思う。けれども難しい・・・。
大崎上島町での活動や安芸太田町での交流については、地元の温かな応援もあり、力量に見合う規模で 2014 年も続けてゆく。

◆活動を終えての感想・意見等

「雪かきボランティア」を積雪が少ないため中止した。現地に用意した道具類はひと冬待機することになるが、地元の方達の生活には好都合であり、“残念”という言葉は厳に慎む。しかし、参加者にとっては鮮明な印象と強い自己肯定感を得る、絶好の研さんの機会になる。この種のボランティアは、離れた地域でも必要としている所に出向く姿勢だが、現実には学生達が大学を休みにくい修学環境になりつつあり、注目を集める大災害は別として、地味な活動への理解の差が現れる。